



下関市の農業

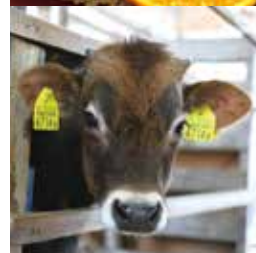
Agriculture of Shimonoseki City



下関市

CONTENTS

I	下関市の概要	1
	地形と気候	
	産業	
II	農業の概要	2
	地域別農業の概要	
III	農業の現状	5
	農家の状況	
	耕作の状況	
	担い手の状況	
IV	農業の特徴	8
	下関市の農畜産物	
	山口県での位置づけ	
V	様々な取組	14
	農産物直売所	
	農村女性起業活動	
	鳥獣被害対策	
	農山村保全活動	
VI	農業の主要指標	16



I 下関市の概要

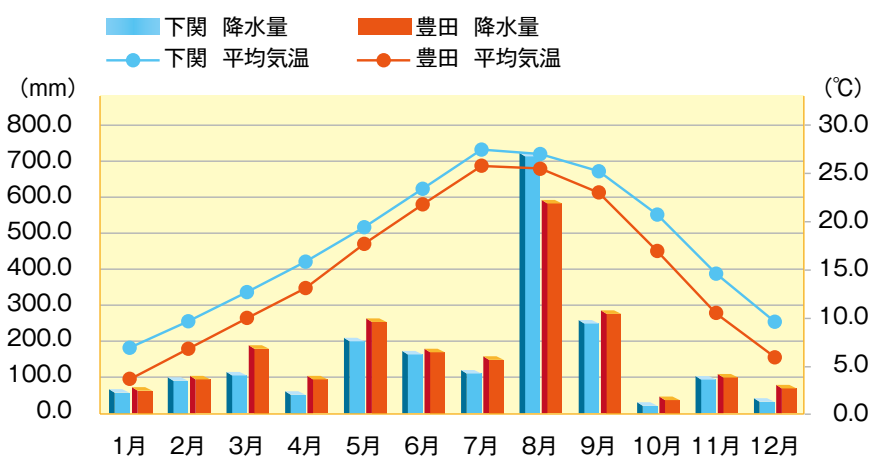
■ 地形と気候

本市は、平成17年2月に、下関市、豊浦郡4町（菊川町、豊田町、豊浦町、豊北町）が合併し、東西が約30km、南北が約50km、面積が約716.18km²の県下有数の広域な自治体となりました。

本州の最西端に位置し、丘陵地が多く、平野が少ない地形となっています。

気候は年平均気温が17.7℃、年間総降水量は1,851.5mmと、一年を通じて温暖な気候に恵まれていますが、冬季は、日本海側の地域では風が強く、山間地域では比較的寒い気候にあります。なお、下関観測所による平均気温では令和3年（2021年）と50年前の昭和46年（1971年）を比較すると約2.2℃上昇しています。

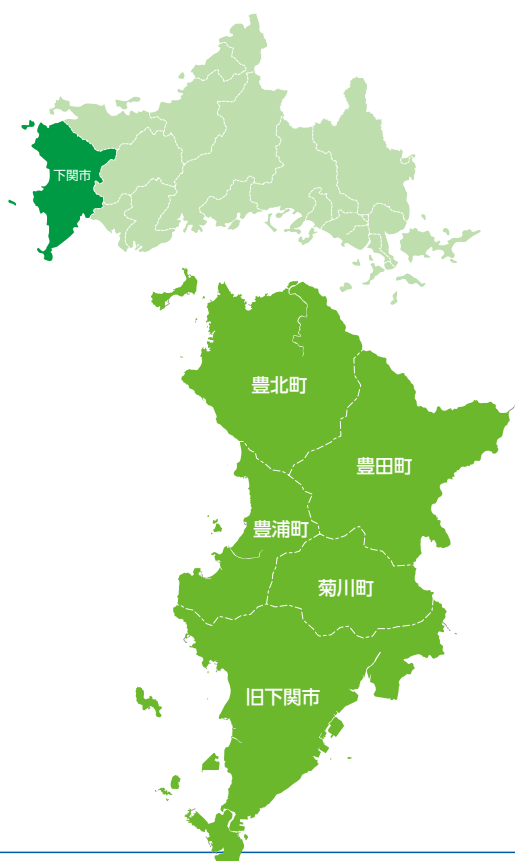
月別平均気温と降水量（令和3年）



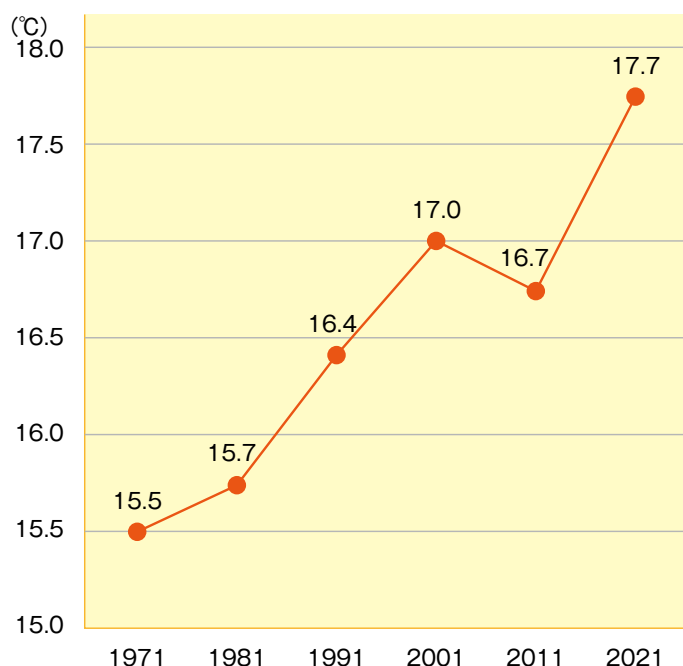
資料:下関地方気象台の気象観測データを基に下関市作成

地点	令和3年 気温(℃)		
	年平均	最高値	最低値
下関	17.7	35.0	-3.4
豊田	15.0	34.8	-6.8

地点	令和3年 降水量(mm)	
	年総量	最大日量
下関	1,851.5	186.5
豊田	2,028.0	158.5



下関観測所における平均気温



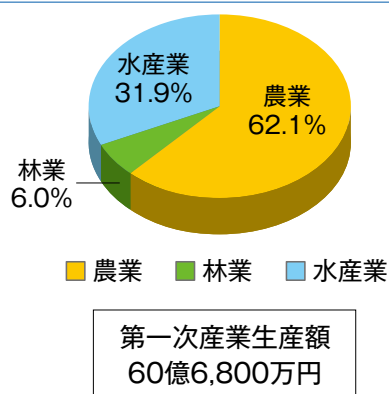
資料:下関地方気象台の気象観測データを基に下関市作成

産業

下関市の令和元年度産業生産額は9,619億7,200万円であり、産業別にみると第一次産業60億6,800万円(0.6%)、第二次産業2,514億4,100万円(26.1%)、第三次産業7,044億6,300万円(73.2%)となっており、第三次産業が占める割合が非常に高くなっています。第一次産業の生産額の内訳では、農業生産額37億6,600万円(62.1%)、林業生産額3億6,400万円(6.0%)、水産業生産額19億3,800万円(31.9%)となっています。

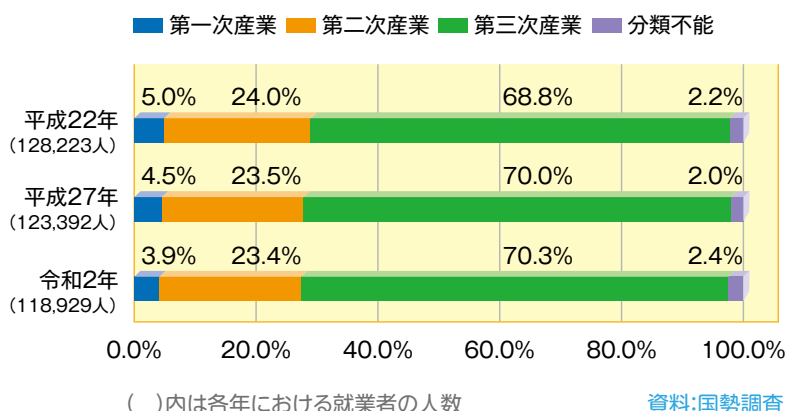
また、就業者数は令和2年で118,929人、そのうち、第一次産業就業者数は4,655人(3.9%)、第二次産業就業者数は27,859人(23.4%)、第三次産業就業者数は83,549人(70.3%)となっており、第一次産業の比率を見ると平成27年に比較し、0.6ポイントの減少となっています。

第一次産業生産額内訳（令和元年度）



資料:山口県市町民経済計算(令和4年3月末現在)

産業別就業者の推移



資料:国勢調査

Ⅱ 農業の概要

下関市は、中国山地西部の600～700m級の山並みから瀬戸内海側に注ぐ木屋川と、日本海側に注ぐ栗野川があり、この水系に沿ってなだらかな丘陵性台地と平野部が形成されています。各河川沿いには、肥沃な農地が展開し、また、瀬戸内海沿いは遠浅を利用した大小の干拓農地が連なっています。

市の西部の響灘に面した地域は、年間を通じて温暖で日照時間が長く、東部の山間地域は、冷涼で昼夜の寒暖差が大きい気候となっており、気象条件を活かした特色ある農業が展開されています。

市の面積の約7割が森林で占められ、耕地面積は約1割で、そのうち約9割近くが水田となっています。

ほ場整備事業や国営農地開発事業の実施により、約5,400haの農地が整備され、効率的な農業を行うための環境が整備されています。

また、地域農業の発展とともに、市内には野菜、花きの市場が開設されており、園芸作物の生産拡大に寄与してきました。

近年は、消費地から生産地が近いという特性を活かした「農産物直売所」も各地で開設され、新鮮な野菜の提供と市民と生産者の交流の場となっています。

下関市の農業は、平成17年の合併以前から旧市町において、地域に適した特徴ある農作物の生産を推進してきました。合併により下関市は、山口県下関農林事務所及び山口県農業協同組合下関統括本部と同一区域となり、農業振興のための施策の推進において、一層連携を密に行うことが可能となり、市場ニーズに対応するため、主要品目の産地規模の拡大に取り組んでいます。

そのほか、生産条件が不利な中山間地域が多く、農業者の高齢化も進む中で、集落営農組織の法人化、農業・農村の環境保全、環境負荷低減への取り組み、そして安心・安全な農産物生産にも取り組んでいます。

一方、イノシシ・シカ・サルなどの有害鳥獣による農林作物への被害額は増加傾向にあり、経済的損失のみならず、営農意欲の減退や耕作放棄地の一因となっているため、有害鳥獣対策においては「捕獲」と「防護」を同時に推進し、農作物の被害防止に取り組んでいます。



■ 地域別農業の概要

(1) 旧下関地域



旧下関地域は、市南部に位置する市街地を中心に扇形に展開する地形で、大きな山岳、河川、平地は少なく、いたるところに丘陵が起伏し、平地は海岸線に沿って拓けています。

地域を大別すると農家の経営規模が比較的大きい、東部瀬戸内海沿岸地域、西部響灘沿岸地域、この両地域の間に起伏する内陸丘陵地域の農村部、旧市内および彦島地区とする市街化地域に区分できます。

農業の特徴としては、経営面積の小さい農家が多い市街地周辺では、市場に近いという有利性を活かして、野菜の中でも年間を通して需要のある小ネギなどの軟弱野菜やトマト、キュウリ、そして、キク、ガーベラなどの花きの生産が施設を中心に行われています。

また、水田等の経営面積が大きい農村地域では、水稻を基幹作物として、イチゴ、ナス、アスパラガスなどの野菜、花き、柑橘類などとの複合経営が営まれています。

農業生産基盤の整備については、農業農村整備事業により営農経費の低減や生産額の増加を図るため、農地の大区画化やはん用化等を目指す基盤整備の実施に加え、老朽化が進む農業インフラ(用排水路、ため池等)の長寿命化・防災減災対策を計画的に実施しています。



トマト



ネギ



ナス

(2) 菊川地域



エビイモ

菊川地域は、緑豊かな山系に囲まれた標高約15mの盆地が中心地となっており、開けた田園平野には木屋川・田部川が中央で合流し、今なお美しい自然を残す緑豊かな中間農業地域となっています。

農業の特徴としては、水稻を基幹作物として小麦・大豆の栽培も行われ、園芸作物については収益性の高いイチゴ・エビイモ・ナス・キャベツ・アスパラガス等の作物を中心に栽培が行われています。

また、消費者の求める「安心・安全」を基調とした環境保全型農業、飼料用稲の栽培による耕畜連携にも積極的に取り組んでいます。

農業生産基盤の整備については、農業農村整備事業により営農経費の低減や生産額の増加を図るため、農地のはん用化等を目指す基盤整備の実施に加え、老朽化が進む農業インフラ(用排水路、ため池等)の長寿命化・防災減災対策を計画的に実施しています。



(3) 豊田地域



豊田農業公園

豊田地域は、連山にて長門市・美祢市と接し、地域内を北流して、日本海に注ぐ栗野川流域と南流して瀬戸内海に注ぐ木屋川流域に分かれ、両河川とも数本の支流があり、その間に盆地状の平野が広がっています。林野面積は地域全体の8割を占めており、山間農業地域となっています。

農業の特徴としては、水稻を中心に畜産、果樹、野菜、施設園芸など多様な複合経営が営まれています。特に果樹については、古くからナシが栽培されており、地域の主要作物となっています。また、豊田農業公園や観光農園などでは、ナシ・ブドウ・リンゴ・イチゴ狩りが行われています。

農業生産基盤の整備については、農業農村整備事業により営農経費の低減や生産額の増加を図るため、農地の大区画化やはん用化等を目指す基盤整備の実施に加え、老朽化が進む農業インフラ(用排水路、ため池等)の長寿命化・防災減災対策を計画的に実施しています。

(4) 豊浦地域



ひとめぼれ

豊浦地域は、南部は旧下関地域と接し、東部は連山を擁する山林地帯となっており、西部の海岸線までの間の平坦部に川棚川、黒井川、吉永川の河川が流れ、これらの河川を中心に豊かな水田地帯が広がる地域となっています。

農業の特徴としては、都市近郊型農業として、水稻を中心に野菜、果樹などを組み合わせた複合経営が営まれています。果樹はミカンなど柑橘類が主であり、越冬甘熟袋かけみかん「ひとめぼれ」が有名です。また、イチゴ・スイカ・アスパラガスを中心とした施設栽培や、タマネギ・はなっこりーなどの露地栽培による野菜生産も行われています。

農業生産基盤の整備については、農業農村整備事業により、老朽化が進む農業インフラ(用排水路、ため池等)の長寿命化・防災減災対策を計画的に実施しています。

(5) 豊北地域



赤ナシ

豊北地域は、市北部に位置し長門市に接し、日本海・響灘と二方を海に開かれ、南は連山により豊田・豊浦地域と接し平野部は少なく中間農業地域となっています。

農業の特徴としては、水稻を中心に畜産、果樹、野菜、施設園芸など多様な複合経営と、国営農地開発事業により造成された畑地において酪農や法人等による果樹(赤ナシ)の大規模な専業経営が営まれています。特に、畜産においては県下有数の産地を形成しています。

農業生産基盤の整備については、農業農村整備事業により営農経費の低減や生産額の増加を図るため、農地の大区画化やはん用化等を目指す基盤整備の実施に加え、老朽化が進む農業インフラ(用排水路、ため池等)の長寿命化・防災減災対策を計画的に実施しています。

Ⅲ 農業の現状

■ 農家の状況

総農家数の推移

総農家数は、令和2年現在3,521戸で、平成22年、平成27年と比較して減少しています。

令和2年の内訳は、販売農家が2,488戸(70.7%)、自給的農家が1,033戸(29.3%)となっており、平成27年と比較すると、販売農家は964戸の減少、自給的農家は96戸の減少となっています。

WORDS

農 家

経営耕地面積が10a以上の農業を営む世帯又は経営耕地面積が10a未満であっても、1年間の農産物販売金額が15万円以上あった世帯のこと。

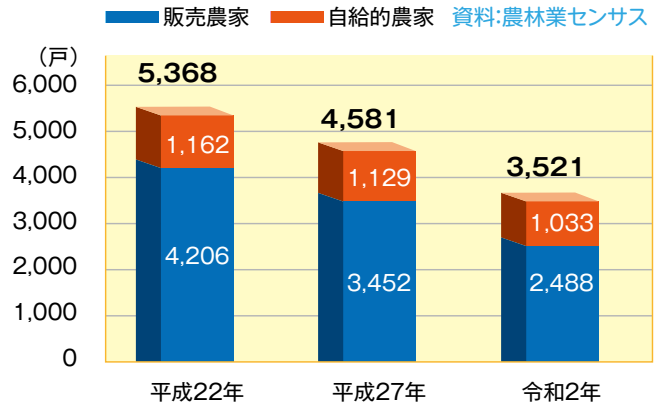
販売農家

経営耕地面積が30a以上又は1年間の農産物販売金額が50万円以上の農家のこと。

自給的農家

経営耕地面積が30a未満で、かつ、1年間の農産物販売金額が50万円未満の農家のこと。

総農家数の推移



■ 耕作の状況

経営耕地面積

令和2年の経営耕地面積(農業経営体)は、4,401haで、耕地種別では水田が3,848ha(全体の87.4%)、畑が444ha(10.1%)、樹園地が109ha(2.5%)となっています。平成22年、平成27年と年々経営耕地面積は減少しており、令和2年の面積は平成27年から1,013ha減少しています。

WORDS

経営耕地

農業経営体(※)が経営している耕地をいい、自ら所有し耕作している耕地(自作地)と、他から借りて耕作している耕地(借入耕地)の合計のこと。

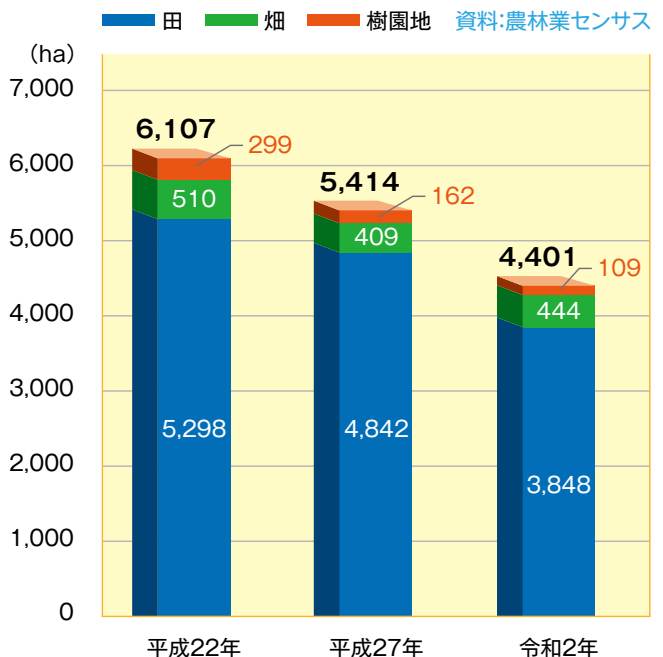
※農業経営体・・・次のいずれかに該当する者

①経営耕地面積が30a以上の規模の農業者

②次の基準以上の農業者

- ・露地野菜作付面積 15a
 - ・施設野菜栽培面積 350㎡
 - ・果樹栽培面積 10a
 - ・露地花き栽培面積 10a
 - ・施設花き栽培面積 250㎡
 - ・搾乳牛飼養頭数 1頭
 - ・肥育牛飼養頭数 1頭
 - ・採卵鶏飼養羽数 150羽
 - ・豚飼養頭数 15頭
 - ・ブロイラー年間出荷羽数 1,000羽
 - ・その他 1年間の農業生産物の総販売額 50万円に相当する事業の規模
- ③農作業の受託事業者

経営耕地面積の推移



平成27年は端数処理のため内訳と合計が一致しない。

生産基盤の状況

本市では、計画的に農地の基盤整備を行っており、令和4年2月末現在、整備済面積は約5,400haとなっています。

大型機械の導入を目的とした区画整理とともに、水田の汎用化や農道・用排水施設の整備を行い、作業の効率化と生産性の向上を図っています。



基盤整備工事の施工状況

ほ場整備の状況

資料：農林水産整備課

地 区	面積 (ha)
旧下関	1,796.4
菊 川	984.7
豊 田	1,198.4
豊 浦	617.5
豊 北	795.1
計	5,392.1

基盤整備の実施中も含む。(令和4年2月末現在)



区画整理後のほ場

担い手の状況

基幹的農業従事者数

令和2年の農業経営体（個人経営体）のうち基幹的農業従事者を年齢別にみると、65歳以上の従事者は総従事者の82.7%を占めており、高齢者により本市の農業が支えられている状況にあります。

基幹的農業従事者の割合をみると、65歳以上の割合が高く、農業従事者の高齢化が進む中、新規就農者や農業後継者の確保、集落営農の組織化を図るとともに、女性の農業経営への積極的な参加を促すことが必要となっています。

WORDS

基幹的農業従事者

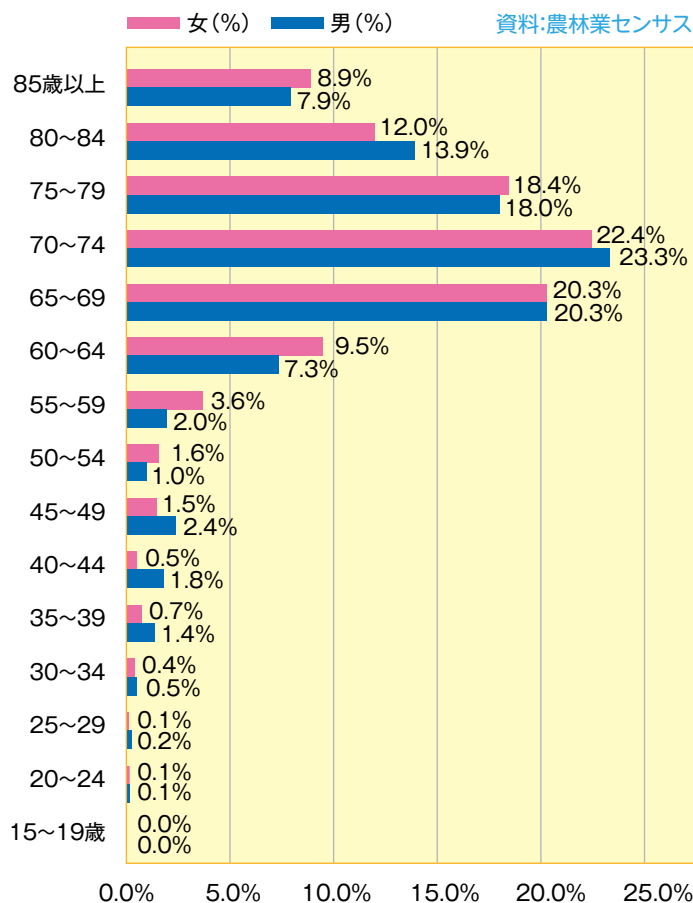
15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者。

個人経営体

個人（世帯）で事業を行う経営体のこと。法人化して事業を行う経営体は含まない。

年齢階層別基幹的農業従事者数（令和2年）

資料：農林業センサス



認定農業者

平成5年に認定農業者制度が創設され、本市においても地域農業の持続的な発展とこれからの下関市の農業の担い手として、経営改善に意欲的な農業者を対象に認定農業者として認定しています。

認定農業者の数は令和4年3月末現在231経営体(うち法人経営体57)となっています。

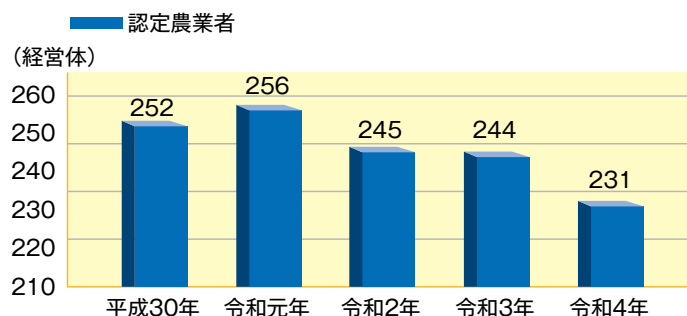
農業者全体の主たる経営部門は水稻が約7割と最も多いですが、認定農業者の部門別構成を見ると水稻が占める割合は少なくなっており、水稻以外の部門、特に野菜や花き、畜産の割合が多くなっています。

WORDS

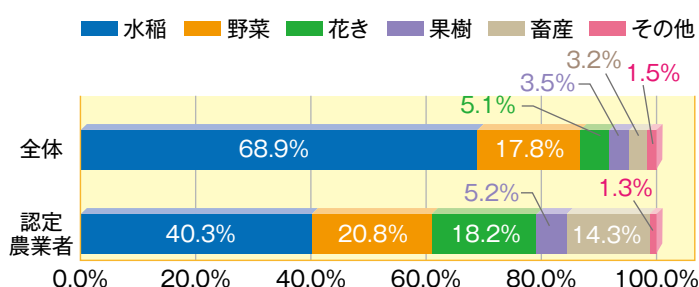
認定農業者

農業経営基盤強化促進法に基づき、農業経営改善計画を作成し、市町村が認定した農業者等のこと。

認定農業者数の推移



部門別構成比



集落営農法人

農業従事者の高齢化や担い手不足が進む中で、集落等を基本的な単位として、水稻や麦の生産において、機械の共同利用や農作業の共同化による経営の効率化を図る営農を組織化する取組が、市内各地域で進んでいます。

令和4年3月末現在、35経営体の集落営農法人が設立され、地域農業の維持、発展を図る取組がなされています。

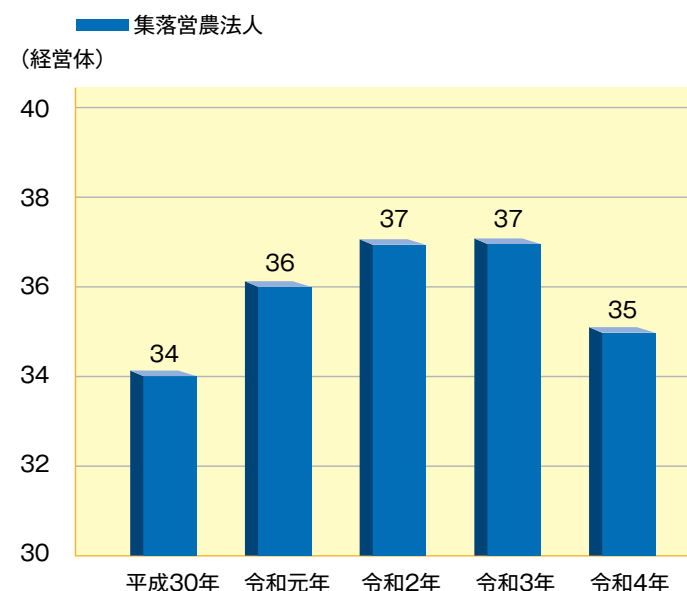
また、効率的な農業生産活動を進める上で、ニーズの高まってきている「スマート農機」の導入が行われています。

WORDS

スマート農機

ロボット技術や ICT 等の先端技術を導入した新たな農業用機械のこと。

集落営農法人数の推移



直進時自動操舵機能付田植機



ラジコン草刈機



農業用ドローン

IV 農業の特徴

■ 下関市の農畜産物

水稻・麦・大豆

農業経営体の約8割が稲作を行っており、県内では2番目に多い作付面積となっています。栽培している品種は、「ひとめぼれ」「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「きぬむすめ」などとなっており、多様な消費者ニーズに対応した米づくりと、ブランド米の確立を推進しています。

麦については、小麦「ふくさやか」や二条大麦の作付けが市内各地域の集落営農法人や認定農業者を中心に行われており、水稻や大豆との二毛作も行われています。

大豆については、旧下関・菊川地域で「サチユタカ」、豊田地域では山口県のオリジナル黒大豆「のんたぐろ」の栽培も行われています。

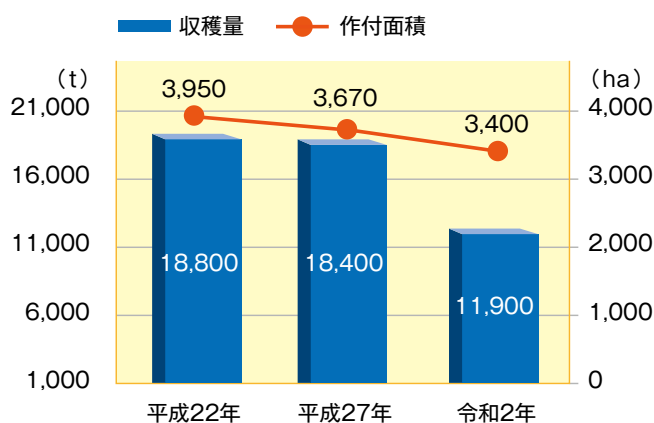
麦・大豆については、近年、農地の集約化による経営規模拡大の中で、作付面積が増加傾向にあり、需要に応じた良質で安定した生産に向けた技術指導や、団地化などを推進し、食料自給率の向上と農地の有効活用に取り組んでいます。

なお、令和2年産の麦の作付面積は約365ha、大豆の作付面積は約98haとなっています。



「水稻」作付面積・収穫量の推移

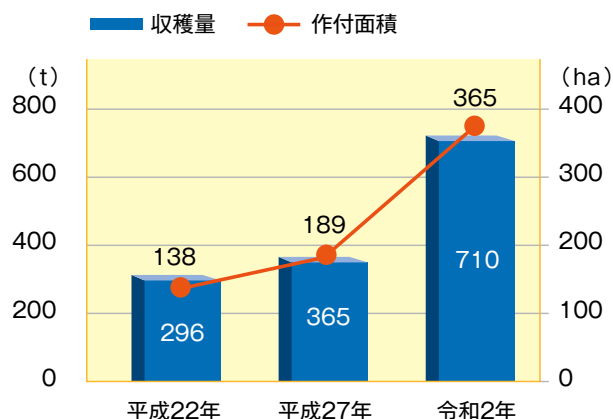
資料:山口農林水産統計年報



令和2年は「トビイロウンカ」の被害により収穫量が減少

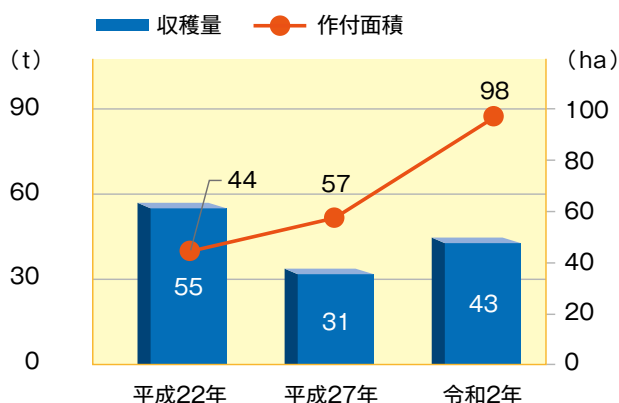
「麦」作付面積・収穫量の推移

資料:山口農林水産統計年報



「大豆」作付面積・収穫量の推移

資料:山口農林水産統計年報



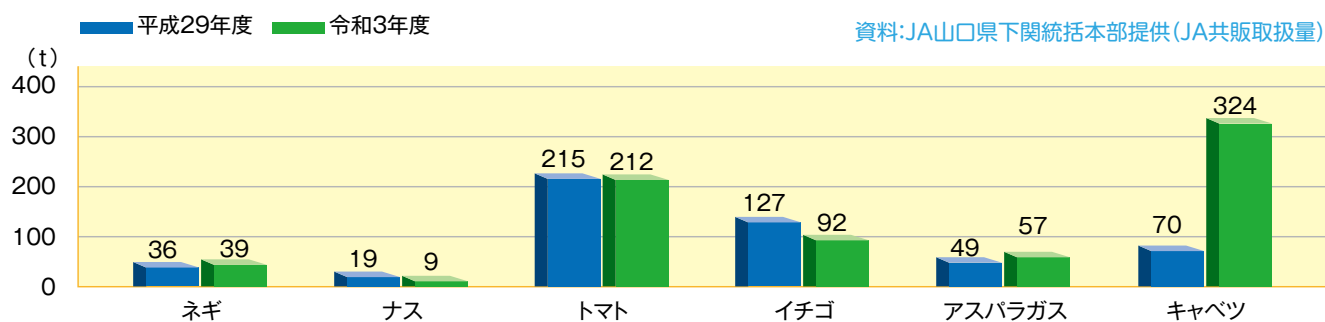
野菜

本市の主要な園芸作物であるイチゴ、トマト、ネギ、アスパラガス、小物野菜については、既存産地を中心に施設の近代化が進み、高品質な農作物が市場に供給されています。特にネギは安岡地区を中心に栽培されており、代表的な野菜となっています。イチゴの栽培は、市内全域で盛んに行われ、高設栽培施設や雨よけ育苗施設等による省力化、安定生産を目指しています。トマトの主な産地は川中地区で、冬春トマトを中心に生産されており、近年は市場性のあるミニトマトの栽培も盛んに行われています。ナスは、主に吉田地区で生産され、吉田ナスとして市場に出荷されています。アスパラガスは、王喜地区と内日地区の一部で栽培されていましたが、近年は清末地区、菊川・豊田・豊浦地域に生産が拡大しています。キャベツは、市内において集落営農法人を中心に栽培されています。



アスパラガス

主要野菜の共販量の推移



トマト



ナス



ネギ



キャベツ



IV 農業の特徴

果 樹

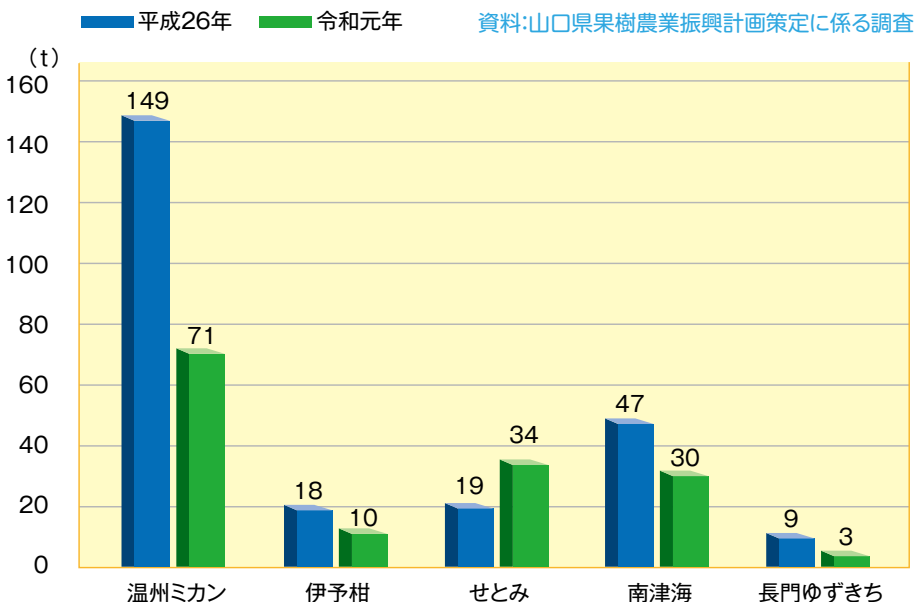
ナシは、県内屈指の生産量を誇り、豊田地域では赤ナシ(豊水など)、青ナシ(二十世紀)を、豊北地域では赤ナシ(豊水、幸水、あきづきなど)を中心に生産され、特産品の一つとなっており、市場出荷を中心に観光農園や直売所での販売も行われています。

柑橘類は、旧下関・豊浦・豊北地域で温州ミカンを中心に、「伊予柑(いよかん)」、「せとみ」、「南津海(なつみ)」も生産されています。越冬甘熟袋かけみかん(商品名:ひとめぼれ)は、市場・消費者から高い評価を得ている人気商品となっています。

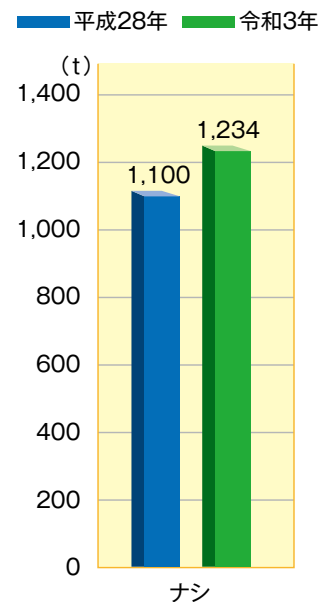
また、「豊北梨あきづき」「下関豊田の豊水」「ひとめぼれ(温州ミカン)」、香酸柑橘の「長門ゆずきち」は、やまぐちブランドの認定を受けています。



主要果樹の生産量の推移



資料:果樹産地構造改革計画(ナシ)



WORDS

せとみ

山口県大島柑きつ試験場(現山口県農林総合技術センター)が育成した柑橘の一品種。清見と吉浦ポンカンの交雑種。出荷時期は3月下旬頃。

WORDS

南津海(なつみ)

山口県周防大島町の生産者(山本弘三氏)が育成した柑橘の一品種。カラマンダリンと吉浦ポンカンの珠心胚実生。出荷時期は4月下旬頃。

花 き

本市の花き栽培は温暖な気候を利用し、旧下関地域を中心に古くから行われてきました。栽培技術も高く、キク、バラ、ガーベラなど多くの種類の花を地元花き市場を中心に出荷し、各農家がお互いに技術をみがきながら発展してきました。

近年では、農業者の高齢化等により、生産量が減少傾向にあるものの、県内一の花の生産地を維持しています。

現在は、山口県のオリジナル品種である、初夏に咲くリンドウ「西京の初夏」や小輪タイプのユリ「プチロゼ」、「プチソレイユ」など新たな品種の生産拡大に取り組んでいます。

また、市内で生産された品質の高い花を「関の花」ブランドとして出荷する取組や、小学生を対象とした「花育」の取組など、花の需要拡大に向けた様々な取組が行われています。



オリジナルユリ
(プチソレイユ)

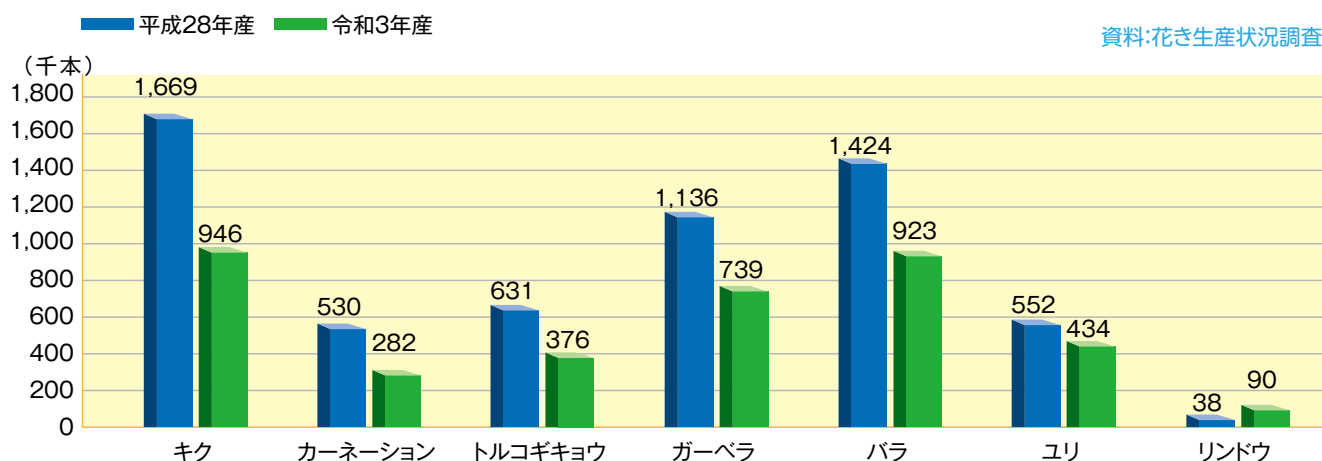


ガーベラ



リンドウ
(西京の初夏)

主要花き類の生産量の推移



WORDS

プチシリーズ

山口県農林総合技術センターが育成した小輪タイプのユリの総称。ユリ独自の香りがなく、花径が小さいので飾りやすいことが特徴。濃いピンク色の「プチロゼ」の他、オレンジ色の「プチソレイユ」など全11品種がある。(現在、下関市を中心に県内で栽培されている。)

畜産

本市の畜産業は、酪農、肉用牛、採卵鶏を中心に盛んに行われており、特に豊北地区においては、草地整備が進んでいることから大規模経営が営まれています。しかし、農業者等の高齢化等により、家畜飼養頭羽数・畜産農家戸数は減少傾向にあります。

家畜ごとの県内における飼養頭羽数をみると、乳用牛では県内の約44%が下関市で飼育されており、県内で最も酪農が盛んな市となっています。

さらに、採卵鶏では30%、肉用牛でも17%と県内で大きな割合を占めています。

また、自給飼料の増産を目的に、耕畜連携による水田での粗飼料の生産面積も拡大しています。

近年、鳥インフルエンザなどの家畜伝染病が世界中で発生しており、飼養衛生管理の徹底が求められています。



肉用牛

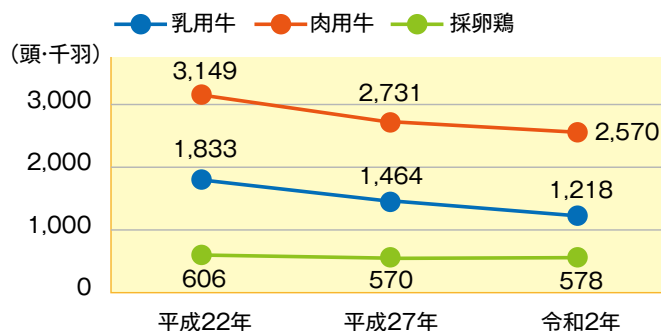


乳用牛



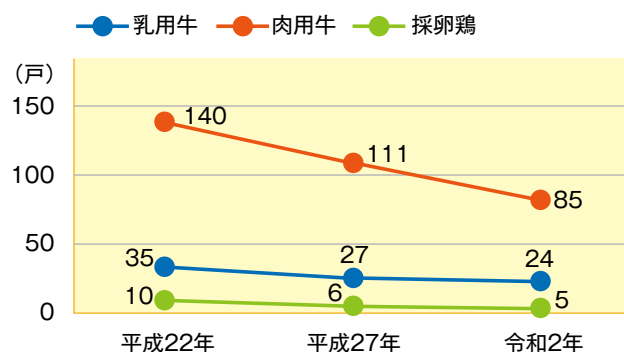
稲藁酢粗飼料 (WCS)

家畜飼養頭羽数の推移



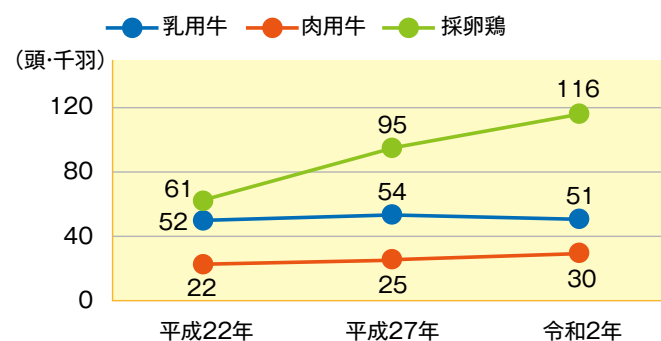
資料:山口県畜産調査表

畜産農家戸数の推移



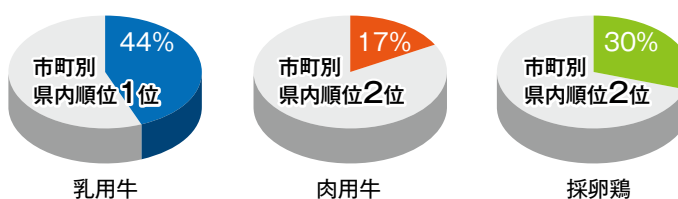
資料:山口県畜産調査表

戸あたりの飼養頭羽数



資料:山口県畜産調査表

令和2年における県内シェア (飼育頭羽数)



資料:山口県畜産調査表



山口県での位置づけ

品種別の生産量（販売量）

山口県内における農畜産物の生産量に占める下関市の割合についてみると、水稲から野菜、果樹、花き、畜産物まで各種の主要な農畜産物において、県内有数の産地となっています。

まず、主要穀物である水稲と麦は、ともに県内第2位の生産量を占めています。なお、水稲については、一般財団法人日本穀物検定協会による米の食味ランキングでも高い評価を受けています。

野菜については、JA山口県が共同販売で取り扱う農作物のうち、下関統括本部の占める割合を比較すると、イチゴで19.5%、トマトで19.9%、そしてアスパラガスにおいては56.9%を下関市で生産された農作物が占めています。

JA山口県の統括本部ごとの県内順位をみると、アスパラガスが第1位、イチゴとトマトが第2位、県のオリジナル野菜である「はなっこりー」、キャベツが第3位となっています。

果樹における市町別生産量では、柑橘類のうち温州ミカン、伊予柑では、県全体の数パーセント程度ですが、「南津海」においては39.5%を下関市で生産しています。

県内順位は、晩柑類の「せとみ」、「南津海」、そして県のオリジナル品種である「長門ゆずきち」が第2位の生産量となっています。なお、ナシについては県内屈指の生産地となっています。

花きについては、生産量の多い品目であるキク、カーネーション、トルコギキョウ、ガーベラ、バラ、ユリのうち、トルコギキョウ、ガーベラ、ユリにおいて、県内生産量の5割以上が下関市で生産されています。

県内順位は、主要な花きであるキク、トルコギキョウ、ガーベラ、バラ、ユリが第1位となっています。

最後に畜産業についてみると牛乳の生産量は、県内の約4割を生産しており、県内第1位、鶏卵については約2割の生産量で県内第3位となっています。

肉用の子牛の出荷頭数については、県内の約2割を占めており、県内第1位となっています。

水稲・麦・大豆収穫量（令和2年）

(単位：t)

作物名	下関市	山口県	県内シェア	市町別県内順位
水 稲	11,900	73,028	16.3%	2 位
麦	710	5,779	12.3%	2 位
大 豆	43	708	6.1%	7 位

資料：山口農林水産統計年報

果樹生産量（令和元年）

(単位：t)

作物名	下関市	山口県	県内シェア	市町別県内順位
温州ミカン	71.0	7,890.0	0.9%	5 位
伊予柑	10.2	222.7	4.6%	3 位
せとみ	33.8	326.4	10.4%	2 位
南津海	30.0	76.0	39.5%	2 位
長門ゆずきち	2.8	29.8	9.4%	2 位

資料：山口県果樹農業振興計画策定に係る調査

ナシ生産量（令和3年）

(単位：t)

作物名	下関市	山口県	県内シェア	市町別県内順位
ナ シ	1,234.0	—	—	—

資料：果樹産地構造改革計画

牛乳・鶏卵の生産量（令和3年）

(単位：t)

	下関市	山口県	県内シェア	市町別県内順位
牛乳生産量	6,294.0	15,221.6	41.3%	1 位
鶏卵生産量	4,204.8	26,291.5	16.0%	3 位

資料：山口県畜産調査表

野菜販売量（JA 山口県共販取扱量）（令和3年）

(単位：t)

作物名	下関市	山口県	県内シェア	統括本部別順位
イチゴ	91.9	470.2	19.5%	2 位
アスパラガス	57.4	100.9	56.9%	1 位
はなっこりー	9.0	64.1	14.0%	3 位
キャベツ	324.0	1,767.2	18.3%	3 位
トマト	211.9	1,064.9	19.9%	2 位
タマネギ	27.0	1,113.9	2.4%	6 位

資料：JA山口県

花き生産量（令和3年）

(単位：千本)

作物名	下関市	山口県	県内シェア	市町別県内順位
キ ク	946	2,085	45.4%	1 位
カーネーション	282	2,145	13.1%	4 位
トルコギキョウ	376	600	62.7%	1 位
ガーベラ	739	1,089	67.9%	1 位
バ ラ	923	2,168	42.6%	1 位
ユ リ	434	758	57.3%	1 位

資料：花き生産状況調査

肉用子牛の出荷頭数（令和2年度）

(単位：頭)

	下関市	山口県	県内シェア	市町別県内順位
子 牛	526	2,349	22.4%	1 位

資料：山口中央家畜市場



V

様々な取組

V 様々な取組

■ 農産物直売所

市内には、地元産の新鮮な農産物や加工品を販売する農産物直売所が約30店舗あります。(令和4年11月末現在)。そのうち、JA直売所の「いただきま〜と川中店・下関東部店」や道の駅では、米や野菜、花きなど、地域の特産ある旬の農産物を数多く扱っています。

また、農産物直売所に並ぶ商品には、生産者の氏名を明記する店舗も多く、信頼感があると消費者に好評で、朝早くから地域の買物客でにぎわっています。



いただきま〜と下関東部店（清木）



道の駅「蛭街道西ノ市」（豊田）



小日本ふるさと市（菊川）



道の駅「北浦街道ほうほく」（豊北）

■ 農村女性起業活動

農業従事者のうち、約半数を女性が占め、農業の生産活動をはじめ、農村地域の発展に女性の力が大きく関わっています。市内では現在10のグループと個人が起業活動を行い、地元の食材を使って、漬物、もち、こんにゃく、ジャムなどの加工品を作っており、各種イベントなどで大変好評を得ています。

農村地域が見直されている昨今、ますます女性起業活動への期待が高まっています。



鳥獣被害対策

被害の状況及び捕獲頭数等

本市は中山間地域が多く、野生鳥獣の生息数の増加と生息域の拡大により、農林作物への被害が深刻な問題となっています。

被害を受けると、収益性が低下するばかりでなく農業者の生産意欲の減退などの悪影響を及ぼします。

被害額については、令和3年度で約1.5億円となっており、特にシカによる被害は増加傾向にあり、全体の約半数を占めていることから、更なるシカの捕獲対策が必要な状況となっています。

有害鳥獣による被害対策としては、「捕獲」と「防護」を同時に推進しており、下関市鳥獣被害対策実施隊による捕獲と侵入防止柵の設置等による防護に取り組んでいます。また、捕獲した有害獣をジビエとして有効活用するためにジビエセンターの運営を行っています。

今後、より効果的に被害を軽減するために個体数管理、被害防除、環境整備（不要果実などの誘因物の除去等）やモンキードッグなどを活用したサルの追い払いなど、地域ぐるみでの取組も推進しています。

有害鳥獣（主要5獣）による被害額

（単位：千円）

被害額	イノシシ	シカ	サル	ヒヨドリ	カラス	合計
令和元年度	37,136	71,202	23,901	239	1,128	133,606
令和2年度	42,384	73,065	26,710	1,141	783	144,083
令和3年度	42,643	75,888	26,440	781	642	146,394

資料：有害鳥獣対策室

有害獣捕獲頭数

（単位：頭）

捕獲頭数	イノシシ	シカ	サル	合計
令和元年度	940	1,578	95	2,613
令和2年度	1,509	1,822	124	3,455
令和3年度	1,361	2,274	109	3,744

資料：有害鳥獣対策室



ジビエセンター処理頭数

（単位：頭）

処理頭数	イノシシ	シカ	合計
令和元年度	158	512	670
令和2年度	188	481	669
令和3年度	231	1,042	1,273

資料：有害鳥獣対策室



地域ぐるみ活動対策

下関市豊北町大字田耕「朝生地区」では、地域住民が中心となり、山口県下関農林事務所、下関市と連携して「朝生地区鳥獣被害対策総合計画」（令和3年2月）を作成し、地域ぐるみで野生鳥獣による被害対策に取り組んでいます。

山林の所有者の高齢化や都市部への転居、木材の利用価値の低下などで森林が放置された状態となっており、イノシシなどが集落に近づきやすく、畑などを荒らす原因となっていたことから、イノシシのエサとなる「シイの木」を中心に伐採するなど、環境整備を行っています。

そのほかの対策として、身を隠す場所を減らすために、県農林総合技術センターによる牛の貸し出し事業「レンタカウ制度」を活用して、耕作放棄地に牛を放牧することで緩衝帯を作り、隠れ場所や侵入経路を無くすなど、野生動物が人里に近寄りにくい環境づくりに取り組んでいます。

個人による有害獣の被害対策には限度があるため、地域ぐるみでの被害対策の取組が重要になっています。

■ 農山村保全活動

農村地域の高齢化や人口減少等により、地域の共同活動等によって支えられている農地の持つ多面的機能の発揮に支障が生じつつありますが、地域の農業者を中心とした組織25団体、取組面積4,344.64ha（令和4年3月31日現在）において、農村環境の良好な保全や施設の長寿命化など、多面的機能を支える共同活動を行っています。

また、中山間地域等においては、将来に向けての農業生産活動を維持する活動を101集落協定、1,994ha（令和4年3月31日現在）で行っています。

さらに、化学肥料・化学合成農薬の使用低減と環境保全に効果の高い営農活動を10団体、89ha（令和4年3月31日現在）で行っています。



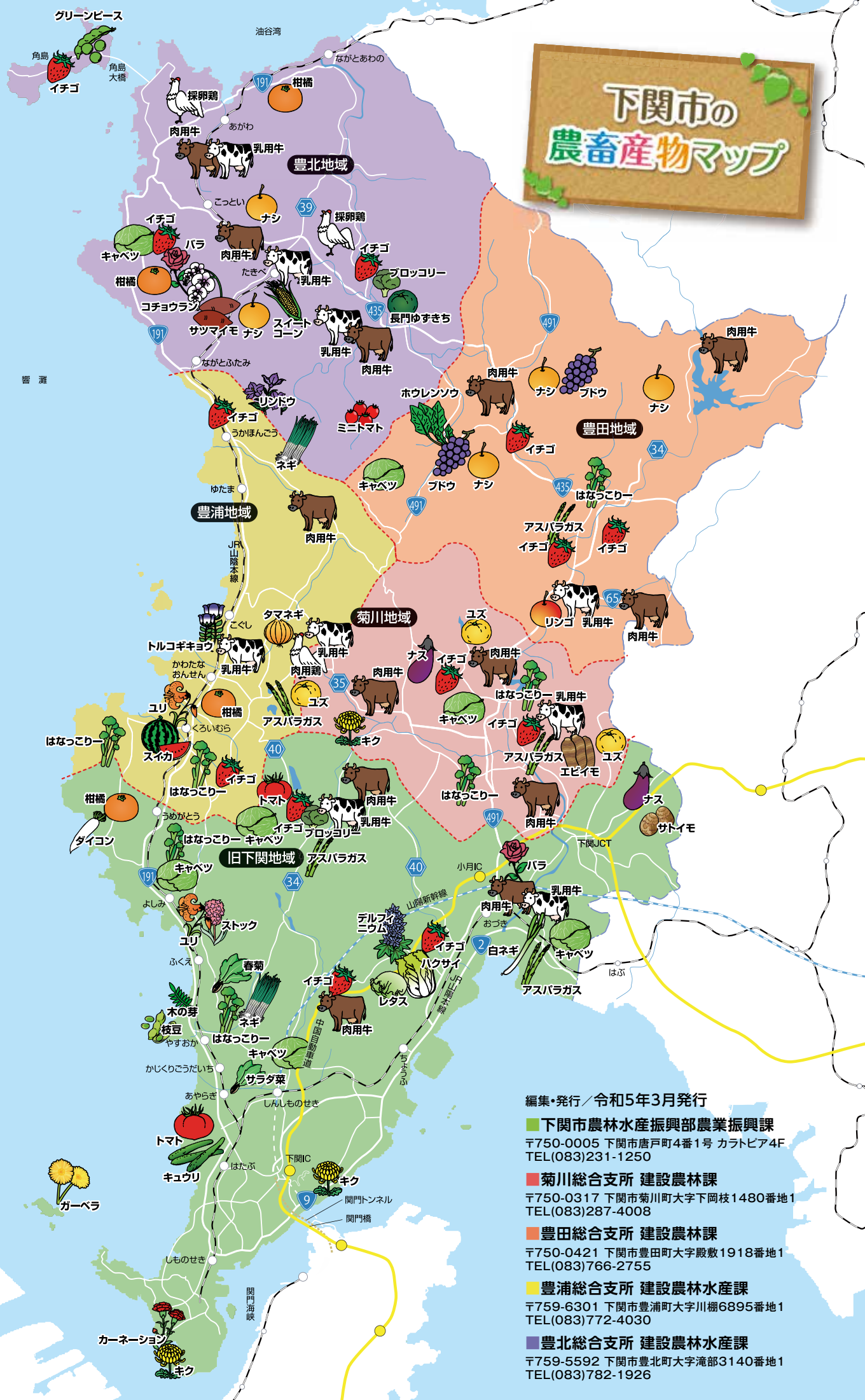
VI 農業の主要指標

項 目		下関市			山口県		
		平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
国勢調査	総世帯数（世帯）	118,178	116,298	115,817	597,432	598,834	598,824
	総人口（人）	280,947	268,517	255,051	1,451,338	1,404,729	1,342,059
	就業者数（人）	128,223	123,392	118,929	665,489	645,035	620,702
農業	総農家数（戸）※	5,368	4,581	3,521	43,171	35,542	27,338
	総農家数／総世帯（％）	(4.5)	(3.9)	(3.0)	(7.2)	(5.9)	(4.6)
	農業経営体数 ※	4,298	3,608	2,645	27,272	21,417	15,839
担い手	基幹的農業従事者 ※	5,164	4,402	3,026	28,131	23,331	16,613
	うち女性（人）※	2,633	2,182	1,343	12,930	10,478	6,671
	（％）	(51.0)	(49.6)	(44.4)	(46.0)	(44.9)	(40.2)
	うち 65 歳以上（人）※	3,780	3,384	2,504	21,708	18,802	14,105
	（％）	(73.2)	(76.9)	(82.7)	(77.2)	(80.6)	(84.9)
農地	経営耕地面積（ha）※	6,107	5,414	4,401	32,563	29,342	25,330
	うち田（ha）※	5,298	4,842	3,848	28,270	25,953	22,308
	うち畑（ha）※	510	409	444	2,377	1,929	1,948
	うち樹園地（ha）※	299	162	109	1,915	1,460	1,074

※農林業センサス

基幹的農業従事者数の平成 22 年・平成 27 年は販売農家、令和 2 年は個人経営体

経営耕地面積は、農業経営体における数値（端数処理のため内訳と合計が一致しない場合がある。）



下関市の 農畜産物マップ

編集・発行／令和5年3月発行

■ 下関市農林水産振興部農業振興課
〒750-0005 下関市唐戸町4番1号 カラトピア4F
TEL(083)231-1250

■ 菊川総合支所 建設農林課
〒750-0317 下関市菊川町大字下岡枝1480番地1
TEL(083)287-4008

■ 豊田総合支所 建設農林課
〒750-0421 下関市豊田町大字殿敷1918番地1
TEL(083)766-2755

■ 豊浦総合支所 建設農林水産課
〒759-6301 下関市豊浦町大字川棚6895番地1
TEL(083)772-4030

■ 豊北総合支所 建設農林水産課
〒759-5592 下関市豊北町大字滝部3140番地1
TEL(083)782-1926